

ななかまど

札幌市立中島中学校
学校通信 第2号 令和8年
(2026年) 7月24日

互いに人格を尊重し、責任を重んじ、礼儀正しい人間

(本校学校教育目標の一部です)

生徒支援部 高橋 憲生

ある日の給食準備に少し遅れていきました。牛乳や箸、ストローなどの配膳が終了してしまいました。ランチマットが敷かれていない私の机を見ると、箸がストローを“箸置き”にして置かれていました。ちょうど口に入れる部分が机に触れないようになっていた！箸を配ってくれた生徒に聞くと、誰かにそうするよう言われたのではなく、また、誰かに習ったわけでもないとのことでした。ランチマットのない机に箸を置く際に、相手のことを思っただうすべきか考えたのだらうと思うと、とても思いやりのある人だなと感じて、心が温かくなりました。

ところで、思いやりの心とはどのようにして育つのでしょうか。周囲の環境や、大人がお手本となったり子どもと一緒に相手の気持ちを考えたりすることを通して育つと考えるのが一般的なのだらうと思います。しかし、ひょっとしたら日頃の礼儀作法を通して育っているということがあるのではないのでしょうか。

我々が子どもの頃はあいさつなどの礼儀作法について、“そういうものだ”と有無を言わず教えられたものです。しかし、その礼儀作法を通して考え、学んでいたと思いませんか？「夜分遅くに申し訳ありません。」というフレーズがありますが、携帯電話が普及していない時代にはよく発したフレーズでした。このフレーズを発するときには緊張を伴ったものです。相手はどのように過ごしているのだらうか、ご家族が寝ているところに電話のベルが鳴り響きはしないだらうか、不機嫌そうな父親が電話に出たら嫌だな…。緊張の中で様々に考えたものです。そうした思考の積み重ねが、相手のことを思っただ想像する礼儀、自身の態度を行動で示す作法となっていくのかもしれない。礼儀作法の形からその意味を考え、相手や自身のことを思いやる心を育てているのかもしれない。

“互いに人格を尊重し、責任を重んじ、礼儀正しい人間”とは本校学校教育目標の一部です。これを“礼儀正しい人間は互いに人格を尊重し、責任を重んじる人に育つ”と言い換えてみると「気持ちのこもっていないあいさつならする必要はない」などと言う人もいるようですが、気持ちは後から気付く、身に付くのかもしれませんよ！夏休みはいろいろ言いたいこと（小言）が増えがちですが、毎日欠かすことなくあいさつしましょう。朝は家族で“おはよう”を。仕事で先に出かけるならメモに残して。いつも一緒に過ごす人どうしであつてもあいさつをする、そういうものとして。いつか「あのとき母さんは毎朝“おはよう”って言ってくれてたな。私は反抗期だったんだっけ、ごめんね。」「あのとき“ありがとう”って言っていたら、どんなに嬉しいと感じてくれただらうか。」などという思いやりの心になるはずです。

これから長い夏休みに入ります。夏休みは体を休めたり、普段できなかったことに挑戦したりして、有意義に過ごさせてほしいです。一方でこうした長期休業が明ける時期には生徒の心において不安定さが増加する傾向にあります。変わった様子（食欲がない、笑顔が少ない等）があれば学校に相談してください。本校ホームページに電話相談窓口を一覧にしておりますので、そういった機関も利用することができます。中島中学校に関わる全ての人が健康で有意義に過ごされることを願っています。

(1学期終業式にあたって)